

「～して」와 「～しながら」의 상호교환성에 관하여

全成龍*

目次

1. 들어가며
 2. 「～して」와 「～しながら」의 상호교환이 가능한 경우
 - 2.1 心理狀態를 나타내는 경우
 - 2.2 表情을 나타내는 경우
 - 2.3 말투를 나타내는 경우
 - 2.4 반복되는 동작을 나타내는 경우
 - 2.5 동작(상태)의 결과가 시간의 길이(幅)를 지니는 경우
 - 2.6 言語活動을 나타내는 경우
 - 2.7 視覺活動을 나타내는 경우
 - 2.8 思考活動을 나타내는 경우
 3. 마치며
-

1. 들어가며

동사의 중지형인 「～して」라는 형태는 文末述語에서 보이는 ムード・テンス등의 형태를 가지고 있지 않다. 그렇다고 해서 ムード・テンス가 없다는 것은 아니며, 다음 예문에서 보여지듯, 보통은 文末述語와 같으며, 文末述語에 위임되어져 있다.

- 예; 今、行って、5時に 歸って 來なさい。(= ……行きなさい。そして、……)
今、行って、5時に 歸って 來よう。(= ……行こう。そして、……)
朝、行って、5時に 歸って 來た。(= ……行った。そして、……)

동사 중지형인 「～して」라는 형태의 ムード・テンス가 文末述語에 위임되어 있다는 것은, 동사의 중지형인 「～して」가 述語性を 가지고 있다는 것을 의미하지만 동사의 중지

* 청주대학교 조교수 일본어학

형인 「～して」에는 ムード・テンスの 형태가 없고 文末述語에 ムード・テン스가 위임되어져 있는 이와 같은 문장구조는, 陳述의 중심을 文末述語에 가지고 가게 되며, 그 결과로서 동사의 중지형인 「～して」라는 형태는 從屬性을 띠게 되며, 文末述語에 대하여 문장의 확대요소로서 從屬의 관계가 씌워지게 된다. (「動詞 중지형 「～して」의 기능과 의미」 『일본문화학보 제17집』 2003. 5. 참조)

이와 같이 동사의 중지형인 「～して」라는 형태가 從屬性을 띠게 되면서 나타나는 현상 중의 하나가 동시동작을 나타내는 「～しながら」와의 상호교환성인데, 여기에 대해서 살펴 보려고 한다.

일본어는 「パンを 食べながら テレビを見る。」 「歌を 聞きながら 勉強をする。」와 같이, 동일한 주어에 의하여 두 개의 동작이 동시에 행하여질 때, 일반적으로 「～しながら」로 나타내며, 繼起的인 동작을 나타낼 때는 「朝 起きて、顔を洗って、パンを食べて、學校へ 行った。」에서 보여지듯, 일반적으로 동사의 「～して」의 형태로 나타낸다. (이 경우 「～してから」형태도 가능함.) 그렇기 때문에, 위의 예문 「パンを 食べながら テレビを見る。」 「歌を 聞きながら 勉強をする。」를 「パンを 食べて、テレビを見る」 「歌を 聞いて、勉強をする」와 같이 「～しながら」로 표현되는 곳을 「～して」로 고치면 동시동작이 繼起的인 동작으로 바뀌며, 「パンを 食べて、學校へ 行った。」를 「パンを 食べながら 學校へ 行った」와 같이 「～して」로 표현되는 곳을 「～しながら」로 고치면 두 개의 繼起的인 동작이 동시동작으로 바뀌게 된다. 이렇게 일반적으로 그 특징과 기능이 서로 다른 동사의 「～して」와 「～しながら」의 두 형태라 할지라도, 문장(文) 안에서의 쓰이는 단어의 어휘적인 의미와 그 기능에 따라서는, 의미의 변화를 일으키지 않고 서로 상호교환이 가능한 경우도 있는데, 여기서는 어떠한 경우에 「～して」와 「～しながら」의 두 형태가 서로 상호교환이 가능한지 구체적인 예문을 통해 살펴보기로 한다.

2. 「～して」와 「～しながら」의 상호교환이 가능한 경우

2.1 心理狀態를 나타내는 경우

이것은, 동사의 「～して」형태가 動作主(주어)의 심리적인 상태를 나타내는 것으로, 그 심리적인 상태 중에 다른 동작 혹은 상태가 행하여지는 경우인데, 이때 「～して」와 「～しながら」의 상호교환이 가능하다.

例1; そして硝子の開き戸がたって、そこに金文字でこう書いてありました。

「どなたもどうかお入りください。決してご遠慮はありません。」

二人はそこで、ひどくよろこんで言いました。(注文の多い料理店)

例2; 「今、何時。」
私が言うと、
「夜中でしょ。」
雄一が言った。
「なんで?」
「外暗いし、静かだから。」
「じゃあ、私は夜逃げね。」
私は言った。
「話の続きだけど。」雄一が言った。「うちももう出るつもりなんだろう? 出るなよ。」
ちっとも話の続きじゃないので、私はびっくりして雄一を見た。(キッチン)

例3; 僕はためらってから、思い切っていった。「ラシーヌです。ジャン・ラシーヌ」
教授は顔中、皺だらけにして、子供のようにだらしく笑った。
「ラシーヌをやる學生が死体運びとはねえ」
僕は唇を噛んで、黙っていた。
「こんな事、何のためにやっているんだ?」と教授は強いて眞面目な顔になろうとしながら、
しなし笑いに息を弾ませていった。「こんな仕事」
「え?」と僕は、驚いていった。(死者の奢り)

例4; 「妹さんも、あるのですか。」私のよろこびは、いよいよ高い。
「ええ、私と四つちがうのですから、二十一です。」
「すると、君は、」私は、急に頬がほてって來たので、あわてて別なことを言った。
(新樹の言葉)

그러나, 동사의 「~して」라는 형태가 아무리 심리상태를 나타내고 있어도,
다음 例5와 같이, 動作主(주어)의 심리적 상태가 文末述語에 원인·이유로 작용하는 경
우라든지

例5; 「子供は餘計な心配しなくてもいいの」
「子供、子供ね。—— いつになったら、大人になるの?」
ちよっと、腹が立って、そうかみついてやった。母は、ちよっとびっくりしたようで、
「どうしたの? 何を怒ってるのよ」
と私を見る。(早春物語)

다음 例6과 같이 「形容詞+なる」의 형태로서 動作主(주어)의 심리상태를 나타내고 있는
경우에는, 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꾸기가 힘들다.

例6; まだ若い月が、そうっと空を渡ってゆこうとしているのが目に止まった時、バスが發車した。
 がくん、と止まる度にムツとするのは自分がくたびれている証據である。何度もムツとしながらも外を見ると、遠くの空に飛行船が浮んでいた。
 風を押し、ゆっくり移動してゆく。
 私は嬉しくなって、じっと見つめていた。小さなライトを点滅させて、飛行船は、淡い月影のように空をゆくのだった。(キッチン)

2.2 表情을 나타내는 경우

그런데 위의 2.1이 나타내는 動作主(주어)의 심리적인 內的狀態가 그대로 밖으로 나타나오면, 動作主(주어)의 「表情」이 되는데 이와 같은 경우도 「~して」라는 형태는 기본적으로 「~しながら」로 바꿀 수 있다.

- 例7; 局長は顔をちょっと赤らめて弁解した。俊介はにかにかがしさを苦笑と酒でまぎらした。
 局長は彼が飲み終るのを待って、あらたまつたようにたずねた。(パニック)
- 例8; その時、鐵柵があいて眼鏡をかけた、三十ばかりの、校長、ウイリアム氏が微笑をうかべてあらわれた。もう立ち話をしている時ではなかった。(アメリカン・スクール)
- 例9; その時、私が男の健二に對して、どうして正直なことを言う氣になったのか、今でもその理由がハッキリしない。
 「私、病氣なんだ。……まあだ、その期日にならないのに、急にはじまったの。私、その準備もしてないし、困っちゃった……」
 「——」
 健二は固苦しい表情をして私の顔をじっと見つめた。(くちづけ)
- 例10; 「姉さん、讀んでごらんさい。なんのことやら、あたしには、ちっともわからない」
 私は、妹の不正直をしんから憎く思いました。
 「讀んでいいの?」そう小聲で尋ねて、妹から手紙を受け取る私の指先は、當惑するほど震えていました。ひらいて讀むまでもなく、私は、この手紙の文句を知っております。けれども私は、何くわぬ顔してそれを讀まなければいけません。手紙には、こう書かれてあるのです。私は、手紙をろくろく見ずに、聲立てて讀みました。(葉櫻と魔笛)

그러나, 주어의 심리적인 內的狀態가 전부 그대로 밖(얼굴)으로 나타나는 것은 아니다 다음에서 보이는 것과 같이, 動作主의 심리적인 內的狀態하고는 정반대로 밖으로 나타나는 경우도 있지만, 이런 경우도 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꿀 수 있다.

例11; それを聞いて王は、殘虐な氣持で、そっと北叟笑(ほくそえ)んだ。生意氣なことを言うわい。どうせ歸って來ないにきまっている。この嘘つきに騙(だま)された振りして、放して

やるのも面白い。そうして身代りの男を、三日目に殺してやるのも氣味がいい。人は、これだから、信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代りの男を磔刑(はりつけ)に處してやるのだ。世の中の、正直者とかいう奴輩(やつばら)にうんと見せつけてやりたいものさ。(走れメロス)

그런데, 동사의 「~して」라는 형태가 表情을 나타내고 있는 경우라 하더라도, 다음에 보여지는 것과 같이, 동사의 「~して」라는 형태가 「形容動詞 なって」 또는 「名詞 なって」의 형태로 動作主(주어)의 표정을 나타낼 때에는 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꾸기 힘들다.

例12; 清兵衛の父はふと瓢箪に氣がつくと、玄能を持って來てそれを一つ一つ割ってしまった。

清兵衛はただ青くなって黙っていた。(清兵衛と瓢箪)

例13; お日さまが にしに かたむき、ゆうやけぞらが だんだん くらく くなりました。

ところが たいへん。あんなに きをつけて あるいて いたのに、おじいさんは、いしにつまずいて ころんで しまいました。おじいさんは まっさおに なって、がたがた ふるえました。(三年とうけ)

例14; 杜子春はまだ眼に涙を浮べたまま、思わず老人に手を握りました。

「いくら仙人になれたところが、私はあの地獄の森羅殿の前に、鞭を受けている父母を見ては、黙っている譯には行きません」

「もしお前が黙っていたら—」と鐵冠子は急に 嚴(おごそか)な顔になって、じっと杜子春を見つめました。(杜子春)

例15; それでも私は、世の中の人がみんなちかちゃんみたいだったらいいのに、とほんの少し

思う。ちかちゃんの目に映る私と雄一は、實際よりもずっと幸福そうに見えたからだ。

「よく考えるけど。」私は言った。「私だってえり子さんのこと、聞いたばかりで、それでも頭の中が混乱しちゃっているのに、雄一はもっとすごいと思うの。今、土足でふみ込むようなことは、できないわ。」

すると、ちかちゃんがふいに 眞顔になってそばから 顔を上げた。(満月—— キッチン2)

2.3 말투를 나타내는 경우

위의 2.1이 나타내는 動作主(주어)의 심리적인 內的狀態가 얼굴에 나타나면, 2.2의 動作主(주어)의 表情이 되지만, 動作主(주어)의 심리적인 內的狀態가 언어(말)에 나타날 수도 있는데, 이 때는 말투가 된다. 이 때도 「~して」라는 형태는 기본적으로 「~しながら」로 바꿀 수 있다.

例16: 母が電話にでた。私はもう母が犯人だと半ば決めつけていたので、「ちょっと、うちのドーナツ食べたでしょっ」と聲を荒らげて言ってしまった。しかし母は「え、そんなの食べるわけないじゃん」とあっさり答えたので、私は拍子(ひょうし)抜けし、急に嬉しくなり「そうだよねエ、お母さんが食べるわきゃないよねエ」と言って無意味に笑ったりするより他なかった。(たいのおかしら)

2.4 반복되는 동작을 나타내는 경우

이것은 動作主(주어)가 나타내는 동작(움직임) 또는 상태가 일정 기간 반복되는 것을 동사의 「~して」라는 형태가 나타내는 것으로, 이 경우도 동사의 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꾸어 쓸 수 있다.

例17: まだ若い月が、そうっと空を渡ってゆこうとしているのが目に止まった時、バスが發車した。がくん、と止まる度にムツとするのは自分がくたびれている証據である。何度もムツとしながらも外を見ると、遠くの空に飛行船が浮んでいた。風を押し、ゆっくり移動してゆく。私は嬉しくなって、じっと見つめていた。小さなライトを点滅させて、飛行船は、淡い月影のように空をゆくのだった。(キッチン)

例18: いそいでいくと、はままで むらの わんぱくこぞうたちが おおきな うみがめを ひっくりかえし、ぼうでなぐったり いしをぶつかけたり わいわい さわいでいじめています。うみがめは ひっくりかえされ あしをバタバタさせて たすけをもとめています。(うらしまたろう)

例19: 二人は時々、うなったり聲をかけ合ったりしながら指角力をしている。それは互いに認め合い許し合う儀式であった。素子は、姉の組子を突つて起した。姉と妹二人が大事にしていたものを、認めてもらったという感じだった。(幸福)

例20: 女子學生は大きすぎるゴム長靴をばたばた鳴らして駆け出し、アルコール液のしたたりが作った褐色の帯の下で足を滑らせ、ひどく不様(ぶざま)な恰好で倒れた。(死者の奢り)

2.5 동작 또는 상태의 결과가 시간의 길이(幅)를 지니는 경우

이것은 동사의 「~して」라는 형태에 의해 나타나는 동작이나 상태의 결과가 어느 정도의 시간의 길이(幅)을 지니는 경우인데, 이와 같은 경우도 다음에서 보여지듯 동사의 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꾸어 쓸 수 있다.

例21: 「……よし、床みがきを再開しよう。」
と彼は言った。
私も洗い物を持って立ち上がった。

- カップを洗っていると、水音にまぎれて雄一が口ずさむ歌が聞こえた。(キッチン)
- 例22; とんと肩をたたかれた。振りむくと、うしろに、幸吉兄妹が微笑して立っている。
「あ、焼けたね。」私は、舌がもつれて、はっきり、うまく言えなかった。
「ええ、焼ける家だったのですね。父も、母も、仕合せでしたね。」焰の光を受けて並んで立っている幸吉兄妹の姿は、どこか懐(りん)として美しかった。(新樹の言葉)
- 例23; 急にジープが止ると、いきなり伊佐の前に小型のピストルが向けられた。
彼は、
「英語で話さぬか、『おまかせして相すみませんでございました』ってもう一度いってみろ」
伊佐は冷汗を流して、おし出すようにそういった。(アメリカン・スクール)
- 例24; 何だか二階の梯子段(はしごだん)の下の暗い部屋に案内した。熱くっていられやしない。
こんな部屋はいやだと言ったらあいにくみんな塞(ふさ)がっておりますからと言いながら
革靴を抛(ほう)り出したまま出て行った。仕方がないから部屋の中へはいって汗をかいて我慢していた。(坊っちゃん)

2.6 言語活動을 나타내는 경우

여기의 언어활동이라는 것은 동사의 「～して」라는 형태가 언어활동의 동작을 나타내는 것인데, 이 경우 동사의 「～して」라는 형태가 나타내는 동작이 끝난 다음에 문장(文)의 술어가 나타내는 동작이 시작된다(繼起的)라고 해석한다면, 문장(文) 속의 동사의 「～して」라는 형태는 「～しながら」로 바꿀 수 없지만, 동사의 「～して」라는 형태가 나타내는 언어활동의 동작이 진행되는 가운데 문장(文)의 술어가 나타내는 동작이 시작된다(同時的)라고 해석한다면, 문장(文) 속의 동사의 「～して」라는 형태는 「～しながら」로 바꿀 수 있다.

- 例25; とんと肩をたたかれた。振りむくと、うしろに、幸吉兄妹が微笑して立っている。「あ、焼けたね。」私は、舌がもつれて、はっきり、うまく言えなかった。
「ええ、焼ける家だったのですね。父も、母も、仕合せでしたね。」焰の光を受けて並んで立っている幸吉兄妹の姿は、どこか懐(りん)として美しかった。「あ、裏二階のほうにも火がまわっちゃったらしいな。全焼ですね。」幸吉は、ひとりでそう呟いて、微笑した。
(新樹の言葉)
- 例26; 私は豪華メニューを熱心に考え、その材料をすべてメモに書いて彼に押しつけた。
「車で行きなさいね。そして、これらのものをすべて買ってきて。みんな雄一の好きなものばかりだから、死ぬまで食べることを楽しみに早く歸ってきてね。」
「うひゃー。お嫁さんみたい。」
とぶつぶつ文句を言って、雄一は出ていった。(満月——キッチン2)

例27; 九州へ立つ二日前兄が下宿へ来て、金を六百円出してこれを資本にして商賣をするなり、學資にして勉強をするなり、どうでも隨意に使うがいい、その代りあとは構わないと言った。兄にしては感心なやり方だ。何の六百円ぐらい貰わんでも困りはせんと思ったが、例に似ぬ淡泊な處置が氣に入ったから、礼を言って貰っておいた。(坊っちゃん)

例28; バスの來る時間は甚 はなば だあてにならなかった。授業時間中のこともあれば、休みの時間のこともあった。休み時間に、バスの音が聞こえると、校庭にばら撒(ま)かれていた生徒たちは、口々に歡聲を上げて、全部が校門のところへ殺到した。そしてバスの方へ手を振り、口々に何かを叫び、それでも足りなくて、いつも十人程の生徒はバスを追いかけるために、その背後から走った。(しろばんば)

例29; 神田大尉は善次郎を無理矢理引き摺り起した。そして頬を平手で打った。

長谷部善次郎はようやくわれにかえった。神田大尉は危険を感じた。叫び聲を上げて死につくものもあるし、黙って死ぬ者もあった。苦痛を訴えながら死んで行く者もあった。このままにしたら一夜にして全員が死に絶えるかもしれない。神田大尉は、人の輪の中心にいる山田少佐に向って叫んだ。(八甲田山死の彷徨)

2.7 視覚活動을 나타내는 경우

이것은 동사의 「~して」라는 형태가 시각활동의 동작을 나타내는 것인데, 이 경우도 위의 2.6의 「언어활동을 나타내는 경우」와 마찬가지로 동사의 「~して」라는 형태가 나타내는 동작이 끝난 다음에 문장(文)의 술어가 나타내는 동작이 시작된다(繼起的)라고 해석한다면, 문장(文) 속의 동사의 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꿀 수 없지만 동사의 「~して」라는 형태가 나타내는 시각활동의 동작이 진행되는 가운데 문장(文)의 술어가 나타내는 동작이 시작된다(同時的)라고 해석한다면, 문장(文) 속의 동사의 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꿀 수 있다.

例30; のんびりとした、あたたかい晝だった。

昨日の朝までは想像もありえなかった、見知らぬ人との遅い朝食の場면을私はとても不思議に感じた。

テーブルがないもので、床に直接いろんなものを置いて食べていた。コップが陽にすけて、冷たい日本茶のみどりが床にきれいに揺れた。

「雄一かね。」ふいにえり子さんが私をまじまじと見て言った。(キッチン)

例31; 「これ、ついこの間バイバイしたのと同じに見えるけど、奥さん、このお札、どこで誰に」
落ち着かなくてはいけないと思いながら、サチ子の聲はうわずっていた。

「誰って、うちのお金は主人の月給かわたしの内職だから」

「それだけ?」

「それだけって、ほかになにかあるんですか」

峰子はじっとサチ子の顔を見てふふと笑った。(隣の女)

例32; ジェイムズ夫婦が上って来るのが見えた。話しながら歩いていた。ジャン・ピエールはそれを、殆んど振り返る位な恰好で、一度見たが、また浩の方を見て、話し續けた。そしてアイリンの聲がきこえた時、また振り返った。彼女はこっちを見て、手を振っていた。(アポロンの島)

例33; 雄一は箸を置き、まっすぐ私の目を見つめて言った。

「こんなカツ丼は生涯もう食うことはないだろう。……大変、おいしかった。」

「うん。」私は笑った。

「全体的に、情けなかったね。今度會う時は、もっと男らしい、力のあるところを見せてやるからな。」

雄一も笑った。(満月 —— キッチン2)

例34; 「この男は兵隊だった」と管理人が、新しい水槽に沿って停(と)めた車の上の死者を見下ろしていった。(死者の奢り)

그런데 다음의 예문은, 동사의 「~して」라는 형태가 위의 다른 예문과는 달리 관계적인 의미가 동시동작이 아닌 「역접」을 나타내고 있는데, 이와 같은 경우도 형태상으로는 동사의 「~して」라는 형태를 「~しながら」로 바꾸어 쓸 수 있다. (이때는 역접의 「ながら」가 된다.)

例35; 「妻には、何も無い。ある意味で僕だけなんだ。そしてこの僕ときたら、彼女を使い果たしてしまつたように、もう長いこと感じたまま、見向きもしない。見なれすぎたために、そこにあることすら氣づかない家具同様に、接して來た。ウォッカに手を出し始めたことを知つても、何ヶ月も見て見ぬふりをして來た。~」(ウォッカ)

그러나 아무리 동사의 「~して」라는 형태가 시각활동을 나타내는 경우라 하더라도, 다음 예문에서 보여지는 것과 같이 동사의 「~して」라는 형태가, 판단의 근거 또는 원인·이유를 나타낼 때에는, 동사의 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바뀌 쓸 수 없다.

例36; 中年の男の死体で信じられないほど軽いものがあつた。新しい水槽で伸びのびして浮かんでいるそれを、木札を取りつけるために攔まえようとしている女子學生のとまどいを見て、僕は始めてその死体が片足であることに氣づいた。(死者の奢り)

2.8 思考活動을 나타내는 경우

이것은 동사의 「~して」라는 형태가 사고활동의 동작을 나타내는 것인데, 이 경우도 위의 2.7의 「시각활동을 나타내는 경우」와 마찬가지로 동사의 「~して」라는 형태가 나타

내는 사고활동이 끝난 다음에 문장(文)의 술어가 나타내는 동작이 시작된다(繼起的)라고 해석한다면, 문장(文) 속의 동사의 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꿀 수 없지만, 동사의 「~して」라는 형태가 나타내는 사고활동이 진행되는 가운데 문장(文)의 술어가 나타내는 동작이 시작된다(同時的)라고 해석한다면, 문장(文) 속의 동사의 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꿀 수 있다.

例37; 三年間まあ人並に勉強はしたが別段たちのいい方でもないから、席順はいつでも下から勘定する方が便利であった。しかし不思議なもので、三年たったらとうとう卒業してしまった。自分でもおかしいと思ったが苦情を言うわけもないからおとなしく卒業しておいた。卒業してから八日目に校長が呼びに来たから、何か用だろうと思って、出かけて行ったら、四國辺のある中學校で數學の教師がいる。月給は四十円だが、行ってはどうだという相談である。(坊っちゃん)

例38; 室内を静かにするために、私はグッピーの住む水槽の全ての電源を切った。酸素のブクブクという音も、水温を保つヒーターの微(かす)かな音も止(や)んだ。録音する少し間くらい大丈夫であろう。そう思って録音の作業に取りかかった。(たいのおかしら)

그러나 아무리 동사의 「~して」라는 형태가 사고활동을 나타낸다하더라도, 다음 예문에서 보여지는 것과 같이 동사의 「~して」라는 형태가 원인·이유를 나타내는 경우에는, 위의 시각활동을 나타내는 경우와 마찬가지로 동사의 「~して」라는 형태는 「~しながら」로 바꿔 쓸 수 없다.

例39; 私はギョッとした。あの部分が一番肝心なのだ。あの部分さえ便壺(べんづぼ)の底へ落ちてくれれば他の切れ端が全部途中で引っかかりと構(かま)やしないというほど、あの部分は肝心なのだ。

私はもっと細かく破らなかつた事を非常に悔いた。点数部分だけでも判別不可能な状態に破るべきであった。面倒臭い事になってしまった。チリ紙を丸めて命中させて落そうと思ったが何回やっても命中しない。オシッコをして流そうと思ってやってみたが量が足りなくてうまく流れない。(たいのおかしら)

3. 마치며

일본어에 있어서 동일한 주어에 의하여 행해지는 2개 이상의 繼起的인 동작을 나타낼 때는 일반적으로 동사의 「~して」의 형태로 나타내며, 同時에 행해지는 동작(同時動作)을 나타낼 때는 「~しながら」의 형태로 나타내지만, 동사의 「~して」의 형태가 동사로서의

述語성을 상실해 가며文末述語에 대하여從屬性을 취득해 가는 과정에서 나타나는 현상 중의 하나가, 동사의「～して」의 자리에「～しながら」의 형태로 바꾸어 넣어도, 문맥의 의미가 바뀌지 않고 바꾸어 넣을 수 있다는 것이다. 이를 구체적으로 살펴보면, 동사의「～して」의 형태가 문장 속에서 주어(動作主)의心理狀態나表情·말투·반복되는 동작·동작 또는 상태의 결과가 시간의 길이(幅)를 지나는 경우와言語活動·視覺活動·思考活動 등과 같은 것을 나타내는 경우인데(본문에서 언급하였듯이 일부 제약이 뒤따르는 경우도 있지만), 이와 같은 경우는 일반적으로「～して」의 형태를「～しながら」의 형태로 교환이 가능하다.

【參考文獻】

- 言語學研究會·構文論グループ「なかとめ 一動詞の第二なかとめのばあい」
(言語學研究會編1989『ことばの科學2』所收·むぎ書房)
- 鈴木重幸 1972 『日本語文法·形態論』(むぎ書房)
- 高橋太郎 外 1994 『日本語の文法』講義テキスト
- 高橋太郎 1994 『動詞の研究』(むぎ書房)
- 仁田義雄 1991 『日本語のモダリティと人称』(ひつじ書房)
- 仁田義雄 1995 「シテ形接續をめぐる」(仁田義雄編『複文の研究(上)』所收·くろしお出版)
- 松村 明編 『大辭林』(三省堂)
- 宮島達夫 1994 『語彙論研究』(むぎ書房)
- 全成龍 2003 「동사 중지형「～して」의 기능과 의미」(『일본문화학보』제17집)

【出典一覽】

- 赤川次郎 『早春物語』(角川文庫·初版)
- 芥川龍之介 「杜子春」(『蜘蛛の糸·杜子春』所收·新潮文庫·三十九刷)
- 石坂洋次郎 「くちづけ」(『女同士』所收·角川文庫·改版十五版)
- 井上 靖 『しろばんば』(新潮文庫·五十五刷)
- 大江健三郎 「死者の奢り」『死者の奢り·飼育』所收·新潮文庫·四十九刷)
- 小川國夫 「アポロンの島」(小田切進編『日本の短編小説 昭和(下)』所收·新潮文庫)
- 開高 健 「パニック」(小田切進編『日本の短編小説 昭和(下)』所收·新潮文庫)
- 小島信夫 「アメリカン·スクール」(小田切進編『日本の短編小説昭和(下)』所收·新潮文庫)
- さくらももこ 『たいのおかしら』(集英社文庫·第 刷)
- 志賀直哉 「清兵衛と瓢箪」(『城の崎にて』所收·角川文庫·改版二十八版)

太宰 治 「走れメロス」(『走れメロス』所収・新潮文庫・二十五刷)
太宰 治 「新樹の言葉」(『新樹の言葉』所収・新潮文庫・九刷)
太宰 治 「葉櫻と魔笛」(『新樹の言葉』所収・新潮文庫・九刷)
夏目漱石 『坊っちゃん』(集英社文庫・第 刷)
新田次郎 『八甲田山死の彷徨』(新潮文庫・二刷)
宮澤賢治 「注文の多い料理店」(『風の又三郎』所収・新潮文庫・二十二刷)
向田邦子 「幸福」(『隣りの女』所収・文春文庫・第一刷)
向田邦子 「隣りの女」(『隣りの女』所収・文春文庫・第一刷)
森 瑤子 「ウォッカ」(『少し酔って』所収・角川文庫・初版)
吉本ばなな 「キッチン」(『キッチン』所収・角川文庫)
吉本ばなな 「キッチン2」(『キッチン』所収・角川文庫)
李錦玉 「三年とうげ」(『國語三年・上』所収・光村図書)
ブティック社刊 『にほんむかしばなし うらしまたろう』(よい子とママのアニメ繪本61)

K C I

要 旨

日本語において、同一主語(動作主)による二つ以上の動作を並べる時、動詞の「～して」という形は、一般的に継起的な動作を表し、「～しながら」という形は、一般的に同時動作を表す。しかし、一般的に継起的な動作を表すこの「～して」という形が動詞としての述語性を失いつつ、従属性を帯びていく過程において見られる現象の中の 하나가、「～して」という形と「～しながら」という形の入れ替えが可能であるということである。このことをここで明らかにしたのである。すなわち、どのような場合に「～して」という形と「～しながら」という形の入れ替えが可能なのかを事例に基づいて「～して」を中心に明らかにしたわけである。

キーワード：動詞の述語性、従属性、動詞の「～して」の機能、「～しながら」の機能

투 고 : 2005. 5. 31
1차 심사 : 2005. 6. 11
2차 심사 : 2005. 7. 2

住 所 : (360-764) 충북 청주시 상당구 내덕동 36 청주대학교 일어일문학과
電 話 : 019-475-3338
e-mail : immanuel@chongju.ac.kr